

No	23												
指標名	脳梗塞入院1週間以内のリハビリ強度												
定義	<p>(分子)入院 7 日目までのリハビリテーション施行単位数 (分母)1 週間以上入院した急性期脳梗塞症例数 ※発症後 3 日以内に入院した患者が対象。</p>												
結果	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>本院</th> <th>全国中央値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2015年度</td> <td>9.9</td> <td>9.2</td> </tr> <tr> <td>2016年度</td> <td>11.2</td> <td>9.7</td> </tr> <tr> <td>2017年度</td> <td>12.0</td> <td>9.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>(当院)2015年度、2016年度、2017年度における当院のデータ (全国)2015年度、2016年度、2017年度に実施した病院の中央値 (2018/04/25 時点 ※他院との詳細な比較につきましては「全国自治体病院協議会 医療の質の評価・公表等推進事業」のページをご参照ください。</p>	年度	本院	全国中央値	2015年度	9.9	9.2	2016年度	11.2	9.7	2017年度	12.0	9.9
年度	本院	全国中央値											
2015年度	9.9	9.2											
2016年度	11.2	9.7											
2017年度	12.0	9.9											
コメント (解説)	<p>脳梗塞では運動麻痺や言語障害などの様々な症状が出ます。 早期からリハビリテーション(理学療法、作業療法、言語療法)を行った方が機能回復がよいとされます。 積極的に取り組んでいる場合には単位数が高くなります。 当院は全国中央値よりもやや単位数が多く、早期から複合的なリハビリテーションの介入を開始して、その評価を医師、看護師、リハビリテーションスタッフが緊密に行っている結果と考えます。</p>												